令和６年度北空知地域住民フォーラム開催結果（評価）

項　目	
１現状・課題	・平成２７年度に深川保健所主催で住民フォーラムを開催、今後も在宅療養や終活について自分の問題として考えられるような住民への普及啓発は必要であるという結果となった。 ・北空知地域は、在宅医療よりも病院や施設に入院・入所し最期をむかえることが多い地域。患者本人、家族の在宅医療に対する理解、覚悟も必要。家で亡くなりたい高齢者もいるが、病院で安心したい家族の思いもある。単身、老老介護の問題もある。 ・このため、本協議会においても、平成２９年度に北海道看護協会の事業を活用し深川市で初めて開催、以降各市町持ち回りで開催することとなった。
２目　　的	北空知地域の住民の方に在宅医療や介護、地域での支え合いについて考えてもらう地域啓発の場とする
３対　　象	北空知地域在住の住民　地域住民の在宅医療・介護を支える支援関係者等
４日　　時	令和６年１１月１０日(日)１０：００～１２：００
５場　　所	深川市 経済センター ３階多目的ホール （深川市１条９番１９号）
６出 席 者	１６１名（事前申込　１４８名） (深川市１３５名、妹背牛町８名、秩父別町５名、北竜町４名、沼田町２名、その他７名　うち一般１２１名、支援関係者４０名）
７内　　容	（１）北空知地域の在宅医療・介護の取組紹介 「自宅で安心して暮らすために～チーム北空知の取組」 ・紹介者　北空知地域医療介護連携支援センター事務局長 村田 真紀 「自宅で安心して暮らすために～訪問看護の取組」 ・紹介者　深川市立病院訪問看護ステーション「みのり」管理者 立花 洋子 ※北空知地域で在宅療養が必要になった時、どんな支援ができるか、北空知地域の支援関係者から事例を紹介しながら情報提供 （２）講演「終活と切っても切れないお金の話」 講師　司法書士法人福村事務所(大阪府大阪市)　福村　雄一　氏 （３）意見交換　「人生の最期をどう迎えたいですか？どう送りたいですか？」
８結　　果	目的：北空知地域の住民の方に在宅医療や介護、地域での支え合いについて考えてもらう地域啓発の場とする ・今回は「ライスパワー体操」が十分浸透している地区のため、ＤＶＤ動画上映や希望者へのＤＶＤ提供は行わなかった。 （１）取組紹介 ・支える世代が少ない人口構成や全道的にも高齢化率の高い地域であり、病気や介護を必要としたときに暮らしを支えるサービスは制度上では多くあるが資源が限られていることから、広域・多職種による連携の必要性を説明。平成２８年に「北空知地域医療介護確保推進協議会」を設立し「チーム北空知」を目指しさまざまな取組が行われていることを紹介した。また、地域包括支援センターや救急あんしんカードの紹介を行った。 ・訪問看護の取組では、本人と家族の願いに寄り添い、支援スタッフが連携し本人や家族の困りごとに細やかに対応して、在宅看取りを含めた２件の事例の紹介がありました。誰もが迎える人生の最期を本人・家族の思いを尊重しながらどのように暮 らしていくのか参加者自身が考える機会になっていました。

項　目	
	（２）講演 ・「終活と切っても切れないお金の話」というテーマで、人生の最終段階に向けた準備 についてのお話があり、「終活とは終わりではなく未来を作ること」「終活は家族や大 切な人とをつなぎなおす時間」をゴールとして、「お金（財産）の人生会議」「相続」「遺言書の必要性」「法改正による新制度」の４点について講話がありました。 【お金（財産）の人生会議】 ・人生会議とは、最終段階に向けて自分が受けたい医療や介護について、大切な人と話し合うこと。厚生労働省が推進しており、多くの人が自分の希望を考えているものの、実際に家族と話し合う人は少ないのが現状。事前に準備をすることで、後悔を減らすことができる。 【相続】 ・相続は、亡くなった後も財産との関わりが続く重要なテーマ。相続手続きには、葬儀や名義変更、インフラの名義切り替えなどが含まれる。相続について知っておくべきことは、財産の把握、相続人の確認、相続分の理解。プラスの財産だけでなく、マイナスの財産も相続される。腹違いの兄弟姉妹など相続権のある親族を把握できてい ないことが往々にしてある。 【遺言書の必要性】 ・遺言書には公正証書遺言と自筆証書遺言の２種類がある。遺言書は法律に基づいて作成され、保管は法務局に預けることができる。遺言書は財産の多い人だけでなく、誰にでも必要。また残された家族のためだけでなく自分の人生を立ち止まって考える きっかけにもなる。若いうちから下書きをしておくとよい。 【法改正による新制度】 ・（終活のキッカケとして）令和６年度より相続登記が義務化された（罰則規定有り）。 ・災害復興の妨げになっていることが問題となり制度化され、施行前の相続についても適用される（相続は全て対象）。 （３）意見交換 ・参加市民からは、遺言と遺留分の違いや相続を知り得ないときはどうするか、などの質問が２名からあり、福村氏からそれぞれ回答がありました。 （４）アンケート結果：回答者数１３４名　配布数１６０名　回収率８３．８％ ・北空知の取組紹介について知ることが出来た、まあまあ知ることができたと回答した人は６７人で９３．３％でした。 ・講演は参考になった、まあまあ参考になったと回答した人は１２７人で９４．８％。 ・自分自身の人生最期を考えることが出来たが８８人、３３．７％、家族の人生の最後について考える機会になった５３人、２０．３％で、自分と家族の双方のことを考える機会となったと思われます。 ・自由記載では、北空知の取り組みについては「知ることができた」「本人の気持ちにスタッフがとても寄り添ってくれている」との意見があった一方、「早口で聞き取れない」「事例は不要」など、今後の時間配分や実施内容を検討が必要な意見があった。

項　目	
	・福村氏の講演に関しては「わかりやすく、明快でユーモアも交えてとてもわかりやすい」「家族が亡くなって 10 年以上（相続が）そのままになっていて家族と話し合いたいと思う」「必ずやって来る未来の話しを専門家に聞かせてもらえて参考になった」など非常に好評であったと思われる意見が多く寄せられた。 ・参加のきっかけはポスター・チラシをみたが最も多く６２人、３６．０%。在宅医療・介護について関心があったが６０人、３４．９%と続いた。 （５）まとめ ・アンケートの結果からも人生の最後について考える機会となり、また、自身や家族の人生の最期について今から準備が必要と思った、遺言書の下書きをしてみる、などの意見が多く、フォーラムの目的は達成されたと思われます。 ・講師からは分かりやすく要点を押さえた講話があり、ときにはユーモアも交えながら終活の必要性の紹介があり、来場者からは時折笑いも起こりつつ大きく頷く姿がみられ、また、来場者数も当初目標の１２０人を大きく上回る数となるなど、地域住民の行動変容を促す良い機会となった。 ・北空知の取り組み紹介に対する感想では、をプロジェクターの字が小さい、説明が早口、事例紹介は不要など、次回に向け反省・検討すべき意見がありました。 ・「人生の最期をどう迎えたいですか？どう送りたいですか？」をテーマに行われた意見交換は、２名の質問のみで時間（会場借り上げ時間制限）となり意見交換までには至りませんでした。 ・開催前は駐車場が満杯になることが心配され、誘導員を配置し近隣旅館の駐車場を借りたこともあってか苦情等が寄せられることはなかった。 ・当初経費面から新聞折り込みはしない予定（講演料と併せ２０万円超）だったが急遽実施した。参加のきっかけが「ポスター・チラシを見た」割合が３割程度で、これまで折り込みを実施した年度と変わりないことから参加者増につながったかと思われる。 ・説明の持ち時間は、概ね予定どおり終了時間で終えることができましたが、講師講演時間を確保するため北空知地域の取り組み紹介が駆け足となってしまったため、時間設定などの検討が必要。 平成２９年から開始した１市４町の持ち回りは２巡目に入り、次年度の開催について今後担当部会で検討することとします。 （６）次年度以降開催地　２０２５年度以降未定 Ｈ２９：深川、Ｈ３０妹背牛、Ｒ１北竜、Ｒ４秩父別、Ｒ５沼田、Ｒ６深川